

「コマーシャルのひみつを考えよう」に関する解説

監修：中橋 雄 武蔵大学社会学部メディア社会学科准教授

何故、本学習をすることが重要なのか

私たちの暮らしを支える情報について学ぶ際、それに関わる仕事やサービス、産業構造などを知るだけでは不十分です。それが、日常生活に活かされる学力となるために、人々に役立つ情報とは何か、どのような影響力をもっているか、そこに含まれる商業的な意図をどう受け止めるべきか、うまく伝えるための演出や表現の工夫にはどのようなことがあるかなどについても学ぶことが重要です。

このようなことを学ぶために、子どもたちにも身近なコマーシャルはよい題材となります。コマーシャルは、目的が明確で、想定されるターゲットに応じた表現がなされています。また、映像、音声、キャッチコピーなどを駆使して表現されており、構成や演出がよく練られたものが多くあります。そして何より、コマーシャルは、消費者にとっては知らないことを知らせてくれる「生活に役立つもの」ですし、マスコミ業界にとっては活動を支える収入源でもあります。それだけに社会的な影響力も大きいのです。

こうしたことは、個々に焦点をあてて学ぶこともできますが、それぞれが密接に関連しています。その関連を考えながら学んでいくことが、本学習の意義といえるでしょう。

何に注意して本学習を実施すればよいか

撮影する対象やセリフが同じでも、撮影する位置やアングルによって印象が異なります。また、BGMを変えることや映像のカットを並べ変えることによって、伝わるメッセージが変わる場合があります。そのことに気をつければ、もっとうまくメッセージを伝えることができるかもしれません。一方、悪意をもてば人をだます（だまされる）こともできますし、意図せず人を傷つけてしまうこともあります。本学習では、そうしたメディアの特性を学習者に理解させることが重要です。

そこで、授業のまとめでは、学習の目的、特に「この学習が、何に役立つのか」ということを学習者と一緒に確認しておくことが重要です。映像制作の工夫やトリックを見ていくことは、そのこと自体が楽しいものであり、子どもたちは、ただ感心するだけで終わってしまう場合があります。映像を視聴する際、また、自分たちで映像を制作する際にも、ここでの学習が活かされるように意識づけることが重要です。